

令和7年度京都府立大江高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
スクールミッション 実践的・体験的な学習を重視し、柔軟な教育を行う地域創生科を設置する高校として、各系統における体系的な学習によって、知識や技能を身に付け、多様な人々と協働する姿勢を育み、地域創生に貢献できる人材を育成する。 スクールミッションを果たすため、生徒の、知・情・意・体の調和のとれた発達を図る。 1 確かな学力【知】 知識や技能の基礎基本の定着を図り、自ら学ぶ意欲と課題解決能力を育てる。 2 豊かな心【情】 徳性を高め、豊かな感性や情操を培うとともに、ボランティア精神を養う。 3 強い意志【意】 自らの進路や新しい社会を切り拓く強い意志とチャレンジ精神を養う。 4 頑健な身体【体】 自他の生命を大切に、健康でたくましく生きる体力を育む。	1 成果 (1) 進路希望の実現に向けて系統的・計画的な進路指導を行い、第一希望での進路実現、また17年連続となる就職内定率100%を達成した。 (2) 地元企業や地域団体と協働で調査研究や実習を行うなど、各系統などでの特色ある取組を数多く行うことができた。 (3) 個々の生徒に応じてきめ細やかな指導を継続し、安心して過ごせる学校環境を維持することができた。 (4) 学校施設・設備に関する課題を整理し、空調設備の更新と暖房方法の整備、Wi-Fiの増設、不要物の廃棄等の環境整備、改善を行った。 (5) Teamsやスタディサブリの活用を進め、会議資料や連絡手段のデジタル化、ペーパーレス化を推進した。 2 課題 (1) 探究的な学びに多く取り組むことができたが、さらに、地域創生科6系統の特色ある取組を継続し、実践的・体験的で探究的な学びを、体系的でより魅力ある地元地域との連携を深めた取組へと、改善する。 (2) スクールミッションの実現のため、めあてを持った教育活動と、評価をもとにした工夫・改善を継続して推進する。 (3) 1人1台学習用端末に関して、生徒の主体的な活用とともに教職員の活用能力の向上が求められている。ICT活用授業の研究や研修を積極的に行い、情報モラルの教育を推進し、校内のネットワーク環境の整備を進める。 (4) オープンスクール等の説明会の参加者数は一定あったが、入学者数はわずかに減少した。本校の魅力ある取組をホームページや報道機関による広報、中学校への説明等で確実に伝える。	1 教職員は「気づく力」を磨き、生徒理解を進め、特別支援教育の視点と人権尊重を基盤とした生徒の指導を通して、自己有用感や自尊感情を育むとともに、人権感覚の涵養に取り組む。 2 「地域創生科」の教育を、体系的なより魅力ある教育にするべく、探究的な学びを深め、知識技能を身に付けさせ、地域の資源を活用した本校ならではの教育の伝統を築いていく。 3 キャリア教育を推進し、2年次のインターンシップをはじめ社会とつながるための学びを進め、多様な人々と協働する姿勢を育み、地域創生に貢献できる人材の育成に努める。 4 1人1台の学習用端末を生徒が主体的に活用できるよう、活用能力の向上を図り、ネットワーク環境の改善を進め、個別最適な学びと生徒の主体的・協働的な学びを推進する。 5 生徒の多様な学びの場として教育的意義が大きい部活動やボランティア活動、委員会活動などの課外活動を推進する。 6 健康・安全教育、防災教育・環境教育、校内美化、身の回りの整理整頓を推進し、安心・安全な教育環境、効率的な業務環境を維持していく。 7 教職員が「つながる力」と「挑戦する力」をもって、スクールミッション達成のため主体的に学び続け、他の教職員や地域社会と協働的に教育にあたる。 「気づき つながり 挑戦しよう」

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
組織・運営	地域とともにある学校づくりの推進	・地域と連携し、地域の資源を活用した特色ある取組を実施する。 【授業評価アンケート「系統の取組を主体的に取り組んだと回答した割合100%」 【地域連携の取組に対する協力団体の満足度100%】 ・各系統の特色ある教育活動の一層の充実を図るとともに、校内外に広く発信する。【ホームページの更新回数週5回以上】			
	ICT活用能力向上の推進と業務改善	・ペーパーレス化、会議の効率化を進める。 【Teams、OneDriveの活用推進】 ・校内外の研修の積極的参加【一人あたりの研修参加 年5回以上】 ・環境や業務改善を推進し、長時間勤務教職員の時間外勤務時間の削減に取り組む。【月1回のノー残業デー（マイホームデー）】			
教務部	授業力向上	・多様な生徒の実態に応じた個別最適な学びにより基礎学力の定着を図るとともに、協働的な学びを推進する。 【放課後学習会への参加生徒の割合40%以上】			
	効果的な広報の推進による志願者増	・学校説明会やオープンスクール、公式HP等を通して、本校の魅力を中学生、保護者へ積極的にPRし、志願者の増加を図る。 【前期選抜における募集定員に対する志願者の割合が65%以上】			
事務部	生徒・教職員が安心・安全な学校生活を送れる環境づくり	・危険箇所等に対する迅速かつ適切な施設管理を行い、日々の美化清掃、整理整頓で教育環境の構築を図る。 【教育環境改善への充足度80%以上】			
	組織的な学校運営	・学年や分掌と連携し、学校課題の解決に向けた校内運営に参画し教育内容充実のために適切な予算の計画的効果的な執行を図る。 【教科・分掌予算の要望に対する充足度80%以上】			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
第1学年部	基本的な生活習慣の確立	・保護者との連絡を密に行い、遅刻・欠席の防止に努める。 ・挨拶の励行と規律、マナーを身につけさせる。 ・タイムマネジメントの観点から生活習慣を見直す。 【遅刻指導者数10%以内】			
	進路意識の醸成と学習習慣の形成	・進路に対する目的意識を持たせる。 ・学習の習慣をつけさせるために学年主催の学習会を実施。 【学習会の実施6回以上】			
	teamsの有効活用	・Teamsを効果的に運用する。 →学年部から流した情報に対してリアクションする癖をつける。 【学年部からの連絡に対して2日以内にリアクションした生徒の割合70%以上】			
第2学年部	規範意識の醸成と基本的な生活習慣の確立	・家庭との連携を密にし、生徒の生活習慣の乱れに素早く対応する。 ・担任団間の生徒の情報交換をきめ細やかに行い、関係分掌との連携を図る。 【欠課10%指導 8人以内】			
	家庭学習の定着及び進路意識の高揚	・教科担当との連携を密にし、個に応じた指導を行う。 ・面談をきめ細やかに行い、具体的な進路目標を明確にさせる。 ・進路指導部と連携し、進学や就職に関する指導や情報共有を効果的に行う。 【評定平均3, 5以上 60%以上】			
第3学年部	生徒理解をもとに「伸ばす力」を大切にしたい指導と支援	生徒の発言や行動・態度等から生徒の状態を把握し、場面に合った働きかけを行い、生徒が自分の行動に自信と責任をもち学校生活を送ることができるよう指導・支援し、生徒が自立・自律しリーダーシップを発揮することができるようにする。 【学校祭アンケート「学校祭全体の満足度」の高い人数70%以上】			
	希望進路の実現	2年次までの進路に関する取組を基に、生徒や保護者等と意思の疎通を図り、かつ校内の分掌や教科と連携しながら希望進路の実現を目指した指導・支援を行う。 【学校評価アンケート「生徒の進学希望実現のため十分な指導をしてきている」と「生徒の就職希望実現のため一生懸命であるとともに、親切に相談にのってくれる」の回答率が共に70%以上】			

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
保健部	教育相談機能の充実と特別支援教育の推進を図る。	・生徒や保護者等の困り感に寄り添い、必要な支援に繋がれるように特別支援教育への理解を深めると共に、SCやSSW、関係機関との連携に努める。 ・配慮や支援が必要な生徒の実態を把握し、充実した学校生活が送れるように個に応じた支援の充実に努める。 【特別支援教育コーディネーター会議の回数 6回以上】			
	健康安全に関心を持ち、自ら健康管理ができる生徒を養う。	・ホームルーム活動での保健学習や保健だより等を通して、健康安全に関する情報発信を行う。また、健康に不安がある生徒や保健室来室者の保健指導の充実に努める。 ・保健だよりやCO2モニターを活用して感染症予防の行動がとれる生徒を養う。また、校内の感染状況を把握し、集団感染の防止に努める。 【保健だより等、健康安全に関するたよりの発行回数 15回以上】			
生徒指導部	社会人基礎力の習得 (校内美化・身だしなみの向上・遅刻の減少)	すべての教育活動を通して個に応じた身だしなみ指導を行う。挨拶、言葉遣いなど社会人として必要なマナー向上を目指す。定期の点検及び生徒会、委員会が主体となった「身だしなみ向上週間」等の新たな取組を2つ以上計画実施する。あわせて、朝の校門遅刻学期末指導件数の年間0件を目指す。 【生徒会の新たな取組2つ以上、朝校門遅刻学期末指導件数0】			
	生徒の活力向上	部活動加入率の向上を目指し、新入生の部活動体験weekの取組を実施し兼部を除く部活動加入率が65%以上を目指す。 【兼部を除く部活動加入率65%以上】			
進路指導部	3年次生の希望進路の実現	系統的かつ組織的に進路ホームルームやガイダンスを実施するとともに、学年部と連携し、個別指導等きめ細かい指導を行う。 【3年次生の進路決定過程における進路指導に対する肯定的意見80%以上】			
	生徒が主体的に進路選択できる力の育成	インターンシップを実施し、オープンキャンパスや企業説明会等への参加を促し、生徒が自ら積極的に考え行動し、主体的に進路選択する力を身につけさせる。 【2年次生のインターンシップ後のアンケートにおいて肯定的意見80%以上】			